

令和 8 年度 入学試験問題

総合問題 (生活・総合)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答はすべて別紙解答用紙に記入ください。
3. 解答用紙は3枚、草稿用紙は2枚です。
4. 解答方法が論述方式の場合は、1マス目から書き始め、1文字空けたり、改行したりせずに横書きで書き進めください。
5. 各解答用紙には、受験番号を記入する欄がそれぞれ1箇所あります。すべて記入ください。
6. 試験終了後、問題冊子と草稿用紙は持ち帰りください。

I 下記の文章を読み，問1と問2について答えよ。

この個所は著作権の関係で表示できません。  
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

この個所は著作権の関係で表示できません。  
掲載の許諾が得られましたら、表示いたします。

出典：2023年6月27日 読売新聞朝刊全国版 教育ルネサンス

この記事を入試問題作成のため、ある部分を省略し個人情報に関する部分を修正した。その他は原文のままである。

問 1 生活科と総合的な学習の時間の授業を先生みんなで考えていくことにより、なぜ「授業の質が高まる」のか。300字程度で答えよ。

問 2 ここで紹介された〇小学校の事例を参考にして、若手教員が成長する学校文化とは、どのような学校文化なのか。300字程度で答えよ。

Ⅱ 現行の小学校学習指導要領によると、生活科の目標は、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育むことである。そのために9つの内容があるが、生活科の内容(7)は、以下のように示されている。

(7) 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみを持ち、大切にしようとする。

【資料】は、国内(長野県)のある小学校の1年生のアサガオ栽培実践の記録の一部である。この教室では、アサガオを一人ずつの植木鉢と教室前の花壇で大切に育て、子ども達はたくさんの花が咲くことを喜び、その後に実った種を取ることを楽しんだ。10月になり、アサガオの葉は落ち、茎は茶色になり、枯れた様子が認められた。担任が「アサガオの枯れた茎をリースにしよう」と子ども達に呼びかけたところ、「抜きたくない」と言う子どもがいた。そこで担任は、このままでいい(抜きたくない)という子どもと、抜いた方がいいという子どもの意見を聞く場を設けた。【資料】を読み、後の問1と問2について答えよ。

【資料：抜くか抜かないかの話し合いの実践記録 1年生の秋】

1 このままでいい

A児「抜いちゃえば、かわいそう。」

B児「まだ、種が取れるから 抜きたくない。」

C児「アサガオと 会えなくなる。」

D児「抜いちゃうと 種 取れないし、かわいそう。」

E児「せっかく 赤ちゃんから芽になって 葉っぱが出て 花が咲いて。枯れちゃっても 育てたい。」

F児「せっかく育てたのに 抜いちゃったら かわいそう。」

G児「緑色の種が まだあるから。」

H児「アサガオが せっかく 頑張って育ったのに、抜いちゃえば 死んじゃって、お水ものめなくて、かわいそう。」

2 抜いたほうがいい

I 児「種あるから 来年も咲かせられる。抜きたい。リースを作って、おかあさんに届けたい。」

J 児「抜いたのでリース作りたい。」

K 児「種をまた取って、来年も いっぱい花を咲かせたい。抜いたのでリースを作りたい。」

L 児「リースを 作ってみたい。」

M 児「リースを作って、お母さんに届けて、飾ってもらいたい。」

N 児「クリスマスのリースを作りたい。どんぐりや 松ぼっくりを つけて。」

O 児「リースを作れば、いっしょに 過ごせる。」

問 1 【資料】の 1 このままでいい という考えを持つ児童と 2 抜いたほうがいい という考えを持つ児童の発言を取り出し、生活科の目標や(7)動植物の飼育栽培の内容の観点から学びの意味を考察し、自分が教師になったつもりで価値づける言葉とその意図を 450 字程度で述べなさい。

問 2 あなたは、生活科の栽培活動において、どのような教師の支援が大切だと考えますか。資料の児童の発言を引用しながら、自分の考えを明確にし、その理由を含め、300 字程度であなたの意見を述べなさい。